

「日医標準レセプトソフト」

ORCA Project

システムパッケージリリース情報 【Version 4.7.0】

2012年12月5日

社団法人日本医師会

改訂内容

- 11月28日 初版
- 11月29日 1-1 注意事項の(4)に、テスト印刷、CUPS ドライバについて追加
- 12月5日 1-5 データベースセットアップ処理に(1)を追加

1 パッケージリリースについて

1-1 注意事項

(1) データベースのバックアップについて

このパッケージへアップグレードするとデータベースの変更が行われます。

アップグレードを行う前には必ずデータベースのバックアップを行い、エラーが発生していないことを確認してください。

アップグレード中にエラーが発生した場合に、アップグレード前のバックアップが正常に行われていない場合は修復不可能となります。

また、グループ診療のためデータベース変更では、システム管理に記録されている医療機関 ID（アップグレード処理日に有効なもの）と異なる医療機関 ID を持つ行を無条件に削除します。

よって、アップグレードは正常に終了しても、システム管理に想定を超えた内容の登録があった場合、すべて行削除される可能性もあります。この場合もバックアップが正常に行われていない場合は修復不可能となります。

このような状態にあっては、サポートセンターへ問い合わせをされても、サポートの対象とは認めませんので悪しからずご了承ください。

(2) データベースセットアップ処理について

データベーススキーマ変更処理方法が変更になりました。

パッケージのインストール処理とデータベースのセットアップ処理を完全に分離しました。

データベースのセットアップ処理を実施しないと日レセは起動できませんのでご注意ください。

(3) 処理時間について

パッケージアップグレードによりテーブルの構造変更を行います。

変更を行うテーブル数も多いうえに対象のテーブルに格納されている行数が多い場合は、マシンの性能（スペック）にもよりますがかなり処理時間がかかると予想されますのでバージョンアップの計画を立てて行うようにしてください。

お昼の休憩時間等にパッケージアップグレードを行うということは避けていただいた方が無難です。業務に支障をきたさない時間帯に余裕をもって行ってください。

- (4) バージョン 4.6.0 以前からアップグレードする場合について
各バージョンのシステムパッケージリリース情報も併せて参照してください。
本資料では、バージョン 4.7.0 における情報に限り説明を行っています。

印刷形式が PostScript から PDF へ変更になりました。

**バージョン 4.6.0 以前でプリンタ出力が可能であった環境であっても、アップグレード後にプリンタ出力できない可能性があります。
必ず、日レセからテスト印刷を行い、正常に出力されることを確認してください。**

プリンタ出力できない場合は、使用している CUPS プリンタードライバが PDF を扱えない可能性がありますので、他のドライバに変更して試してください。

例 PostScript プリンタで Local Raw Printer ドライバを使用していた場合

1-2 日レセパッケージ

バージョン 4.7.0

対応 OS

- ・ Ubuntu 12.04 LTS (Precise Pangolin) **64bit**
- ・ Ubuntu 10.04 LTS (Lucid Lynx) 32bit

1-3 クリーン・インストール

公式ホームページの「日医標準レセプトソフトのダウンロード・インストール」をご参照ください。

- (1) Ubuntu 12.04 LTS (Precise Pangolin) 版

以下のページをご参照ください。

<http://www.orca.med.or.jp/receipt/download/precise/>

- (2) Ubuntu 10.04 LTS (Lucid Lynx) 版

以下のページをご参照ください。

<http://www.orca.med.or.jp/receipt/download/lucid/>

1-4 アップグレード・インストール

アップグレード方法について説明します。

※Ubuntu 10.04 LTS (Lucid Lynx) 版の場合となります。

- (1) データベースをバックアップします。

アップグレードの前には必ずデータベースのバックアップを行ってください。

バックアップの方法

ターミナルエミュレータから以下のコマンドを入力します。(以下同様)

```
$ sudo -u orca pg_dump -Fc orca > (バックアップファイル名)
```

(2) スキーマチェックを行います。

現在のデータベースの状態をチェックします。

最新のチェックファイルによりチェック処理を行うため以下の方法により処理を行います。

```
$ wget http://ftp.orca.med.or.jp/pub/etc/jma-receipt-dbscmchk.tgz
$ tar xvzf jma-receipt-dbscmchk.tgz
$ cd jma-receipt-dbscmchk
$ sudo bash jma-receipt-dbscmchk.sh
```

処理が終了したらメッセージが表示されますが、不整合が発生した場合、作業ディレクトリ(jma-receipt-dbscmchk/)に jma-receipt-dbscmchk.log というファイルが作成されます。

ファイルの内容を確認してください。

整合性に問題なしと出ればスキーマは問題ありません。

(3) apt-line の追加をします。

日レセパッケージを取得するための apt-line を追加します。

[lucid の場合]

apt-line の設定ファイル(jma-receipt-lucid47.list)を公式ウェブサイトから取得し、/etc/apt/sources.list.d 以下に配置します。

```
$ sudo wget -q -O ¥
/etc/apt/sources.list.d/jma-receipt-lucid47.list ¥
http://ftp.orca.med.or.jp/pub/ubuntu/jma-receipt-lucid47.list
```

(4) パッケージをダウンロードします。

```
$ sudo apt-get update
$ sudo apt-get dist-upgrade -dy
```

ダウンロード中に中断されたなどエラーが発生していないことを確認します。エラーが発生し終了した場合は再度ダウンロードを行います。

(5) アップグレードします。

```
$ sudo apt-get install jma-receipt
$ sudo apt-get dist-upgrade
```

※ver4.7.0からはアップグレード後に日レセの起動を自動では行いません。

1-5 データベースセットアップ処理

- (1) 既存のデータベースのエンコーディングが UTF-8 の場合は設定ファイルを作成します。
「 /etc/jma-receipt/db.conf 」というファイルを以下の内容で作成します。

```
DBENCODING="UTF-8"
```

注意

セットアップ処理スクリプトでは、データベースエンコーディングのデフォルトを EUC-JP とします。

既存データベースのエンコーディングが UTF-8 の場合は、設定ファイル作成は必須となります。

- (2) コマンドを実行します。

```
$ sudo jma-setup
```

1-6 日レセの起動

データベースセットアップ処理が終了しても日レセは自動で起動しませんので、以下のコマンドで起動します。

```
$ sudo service jma-receipt start
```

1-7 プログラム更新処理

日レセが起動したらプログラムの緊急修正情報があるか確認を行ってください。

緊急修正情報がある場合は、必ず業務メニュー画面より「プログラム更新」を行ってください。

1-8 データベーススキーマ変更の確認について

業務メニューからの「92 マスタ更新」を選択するとデータベースの構造バージョンを確認できます。

正常にアップグレード（インストール）が完了すると「構造 ver (自)」及び「構造 ver (ORCA)」の表示は次のようになります。

「S-040700-1-20121121-1」 ※平成 24 年 12 月 5 日現在

また、/var/log/jma-receipt/orca-db-install-4.7.0.log というファイルが作成されますので “ERROR” という文字が含まれていないか確認します。

```
$ grep ERROR /var/log/jma-receipt/orca-db-install-4.7.0.log
```

さらに、スキーマチェックを行います。

```
$ cd jma-receipt-dbscmchk  
$ sudo bash jma-receipt-dbscmchk.sh
```

不整合が発生していないことを確認します。

1-9 マスタ更新データの提供について

パッケージをアップグレードしただけでは各種マスタは更新されません。必ず業務メニュー画面より「92 マスタ更新」を行ってください。

業務メニュー画面の「92 マスタ更新」を選択しマスタ更新管理一覧画面より「更新」ボタン(F12 キー)を選択すると更新処理を開始します。

提供されているマスタ更新データの最新情報は公式ホームページあるいは業務メニュー画面の新着情報をご確認ください。

マスタ更新処理プログラムは、`/var/lib/jma-receipt/master/01/orca-mstlog/` にログを書き出します。拡張子が ERR というファイルが空(0 バイト)でない場合は、対となるファイル名の拡張子 PRF というファイルの内容を確認します。

(`/var/lib/jma-receipt/master/01/orca-mstlog/` の 01 は医療機関識別番号です。)

2 Version4.6.0 に対する修正プログラム提供内容

Version4.6.0 システムに適用させるため提供した修正プログラムについては、すべて当該バージョンに含まれています。提供したプログラムの修正内容については、公式ホームページあるいは業務メニュー画面の新着情報をご確認ください。

3 クライアントアプリケーションについて

3-1 利用可能なクライアントアプリケーション

バージョン 4.7.0 リリース版で利用可能なクライアントは以下となります。

- ・ glclient2

- [Precise の場合]

- (panda-client2 1:1.4.7+p1-u3jma1 以降)

- [Lucid の場合]

- (panda-client2 1:1.4.7+p1-u2jma1 以降)

- ・ monsiaj

- 20121119 版以降

- * Windows 版

- <http://ftp.orca.med.or.jp/pub/java-client/monsiaj-bin-20121119.zip>

- * MacOSX 版

- <http://ftp.orca.med.or.jp/pub/java-client/monsiaj-bin-macosx-20121119.zip>

3-2 glclient2 の変更点

(1) クライアント保存のアプリケーション起動設定を拡張しました。

従来のアプリケーション起動設定の書式

- ・ 1行1エントリ

- ・ 1エントリは、「拡張子:アプリケーション文字列」の形式

- ・ アプリケーション文字列には起動コマンドとオプションを記述

- ・ アプリケーション文字列中の“%s”にファイル名が展開される

に以下を追加しました。

- ・ 「ファイル名:アプリケーション文字列」

「ファイル名:アプリケーション文字列」のエントリは「拡張子:アプリケーション文字列」のエントリより優先されます。

例えば、下記のアプリケーション設定の場合に「toukei.csv」をダウンロードした場合、「csv:gedit %s」ではなく「toukei.csv:libreoffice %s」が適用されます。

---- ここから

```
txt:gedit %s
```

```
png:evince %s
```

```
csv:gedit %s
```

```
toukei.csv:libreoffice %s
```

```
iso:brasero -i %s
```

```
UKE:jma-receview %s
```

```
HEN:jma-receview %s
```

---- ここまで

- (2) コマンドラインオプションを変更しました。

オプションは以下の3つのみとします。

- ・ -c, --config [設定番号、または設定名]
指定した設定番号、設定名の設定を使用して接続します
- ・ -l, --list-config
登録されている設定を表示します
- ・ -h, --help
ヘルプを表示します

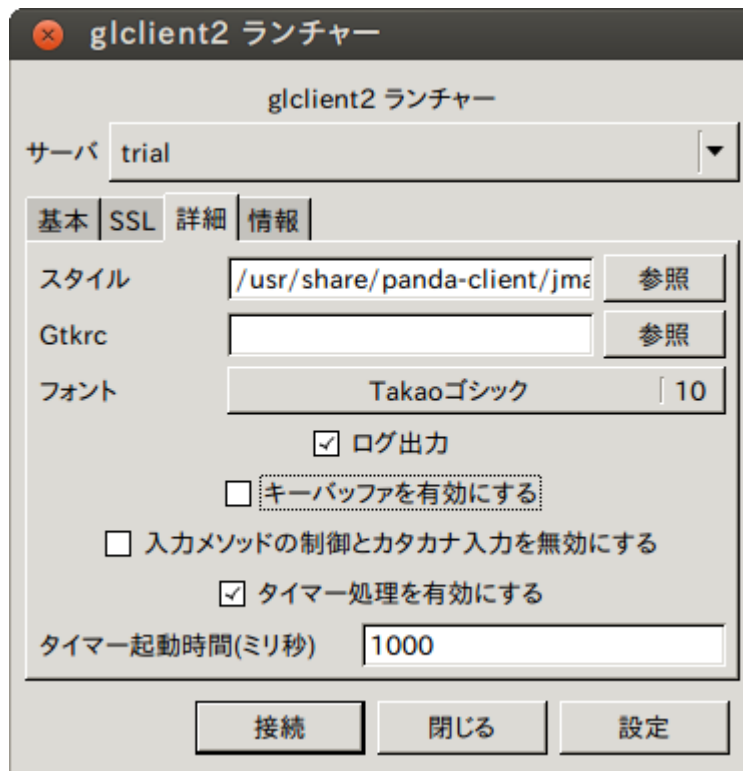
設定の登録はランチャーから行います。オプションを指定しない場合はランチャーダイアログが表示されます。

従来の以下のオプションは廃止となります。

-port -cache -style -gtkrc -user -pass -v1 -v2 -mlog -keybuff -dialog -config
-configlist -key -cert -ssl -CApath -CAfile -ciphers -pkcs11 -pkcs11_lib -slot
**デスクトップのショートカットアイコンからの起動のためコマンドラインオプション
を利用している場合は修正が必要です。**

- (3) ランチャーの詳細オプションを追加しました。

- ・ フォント設定



フォントの右側のボタンをクリックすると「フォントの選択」ダイアログが表示されま

す。



ここで選択したフォントが接続後のメインメニュー画面で使用されます。

※デフォルトは「Takaoゴシック 10」です。「Takaoゴシック 10」以外のフォントを設定した場合はボタン等から文字がはみ出る場合があります。

・入力メソッドの制御とカタカナ入力の無効化

「入力メソッドの制御とカタカナ入力を無効にする」にチェックを入れると、特定のエントリで入力メソッドが自動で ON になる機能(患者登録の漢字氏名等)とカタカナ入力機能(患者登録画面のカナ氏名等)の機能が無効になります。

(4) 設定の保存方法を XML ファイル(\$HOME/.glclient/glclient.conf)から gconf に変更しました。

設定は gconf キー /apps/glclient 以下に保存されます。

設定を直接参照したり変更する場合は gconftool-2(1)を使用してください。

また、初回実行時(/apps/glclient/confconvertedの有無で判断)に XML ファイルを参照し、XML ファイルがある場合は gconf への自動変換を行います。

4 monpe のバージョンアップについて

日レセ 4.7.0 より帳票フォーマットの変更を伴う monpe のバージョンアップを行います。全ての帳票をバージョンアップ前の monpe (以下、「旧 monpe」といいます) のフォーマットから、バージョンアップ後の monpe (以下、「新 monpe」といいます) のフォーマットにコンバートした後、必要に応じて文字位置の調整作業が必要になります。

バージョンアップを行う理由を以下に記載します。

(理由 1)

旧 monpe では、画面上の文字の大きさ、位置が印刷時のものと大きく異なる問題があります。これは、旧 monpe が Gtk+-1.2 をベースとし、X フォントを利用していることによるものです。最近の OS では X フォントはあまり入っていないため、拡大縮小の倍率によっては使用できるフォントが制限され文字表示のズレにつながります。新 monpe では TrueType フォントを使用しますので、帳票作成時の画面の内容がそのまま印刷されます。

(理由 2)

旧 monpe は PostScript 形式の帳票を出力しますが、最近の Linux での印刷 (cups) において、PostScript 形式は既に主要な方式ではありません。新 monpe は PostScript 形式ではなく PDF 形式で帳票出力するようになります。

新 monpe の使用方法については、以下のページをご参照ください。

<http://ftp.orca.med.or.jp/pub/data/receipt/tec/monpe-manual-0.6.20-1.pdf>

帳票テンプレートファイルのコンバートと修正方法については、以下のページをご参照ください。

<http://ftp.orca.med.or.jp/pub/data/receipt/tec/monpe-version-up-for-ver470.pdf>

5 panda-fdd パッケージについて

FD や MO は、すでに製造中止や製造減少となっていること、OS によるデバイスのサポートが打ち切られる可能性があることなどから、これらの媒体を非推奨とします。

Lucid では現行ユーザがありますので継続してパッケージを提供しますが、Precise ではパッケージの提供を行いません。

クライアント保存機能によるファイル作成を行ってください。

6 診療行為入力について

診療コードなどのコード入力方法をスプレッドシート風のインターフェイスに変更しました。

入力操作も変更となりますが、前バージョンまでの操作になるべく近づけるようにしました。が、以下については現時点で対応不可の内容となります。

- ・日本語モード切替
入力コード欄で[半角/全角]キーを押すと、Lucidでは日本語オンとなりますが、Preciseでは日本語オンとならず、もう一度[半角/全角]キーを押すとオンになります。
- ・カーソルキー移動
「診区」・「数量・点数」欄にカーソルが移動してしまいます。
- ・TABキー移動
前バージョンまではTABキーにより「入力コード」欄と「名称」欄を順番に移動できましたが、スプレッドシート全体が1つのウィジェットとなるため、従前の移動はできません。
- ・入力コード欄でコメントコード（内容入力を要求するもの）を入力したらカーソルは名称欄へ移動しますが、自動で日本語オンになりませんので[半角/全角]キーを押してから入力してください。

7 glserver のホスト名逆引きについて

glserver がホスト名の逆引きをしない設定をデフォルトにしました。

/etc/jma-receipt/jma-receipt.conf で NUMERICHOST=false を設定すれば逆引きするようになります。

8 データベーステーブルスキーマ変更について

8-1 変更テーブル一覧

算定履歴付加	TBL_SANTEIPLUS	項目追加
患者労災保険情報	TBL_PTRSINF	項目追加
診療会計付加	TBL_SRYACCTPLUS	項目追加
診療会計付加（プレビュー）	TBL_SRYACCTPLUS_PRV	項目追加
受診履歴照会	TBL_RRKSRH	インデックス変更
診療行為照会	TBL_SRYSRH	インデックス変更
ワーク診療行為	TBL_WKSRYACT	項目追加、プライマリキー変更
薬剤情報テンポラリ	TBL_YAKUJYO_TEMP	項目追加、データ型変更
請求管理照会	TBL_SKYSRH	項目追加
請求管理基本	TBL_SEIKYU_MAIN	項目追加
一般名	TBL_GENERICNAME	桁数変更
オンライン返戻明細	TBL_HENREI_BODY	桁数変更
統計覚書	TBL_TOUKEIMEMO	項目追加
ジョブ管理情報	TBL_JOBKANRI	項目追加

8-2 追加テーブル一覧

患者保険確認年月日履歴	TBL_PTHKNRRK
労働基準監督署	TBL_LABOR_SIO
請求管理（労災情報）	TBL_SEIKYU_RSI
クライアント印刷制御	TBL_PRTCTRL
最低薬価	TBL_GENERIC_PRICE
患者地域連携	TBL_PTNUM_PUBLIC

8-3 テーブルスキーマ変更における周辺システムとの連携について

カラムの追加やカラムのデータ型を変更しているテーブルがいくつかあります。日レセと連携を行う周辺システムをご使用の場合は、アップグレードする前に十分に動作確認等を行ってください。特に ODBC 経由等でデータベースへアクセスされている場合はご注意ください。

※ワーク診療行為テーブルを変更しています。周辺システム連携では、最も使用されるテーブルの一つですので特にご注意ください。

9 既知の問題点について

9-1 monsiaj とクライアント印刷について

サーバで作成した画像を含む PDF (薬剤情報、QR コード付き処方箋など) を monsiaj でクライアント印刷すると正しく表示できません。

原因は、monsiaj (Java 印刷ライブラリ) の不具合ですが修正は困難な状況です。

クライアント印刷のダイアログで一旦ファイルに保存してから PDF ビューワなどで印刷してください。

9-2 Java Web Start 版と Windows8 について

Windows 8 においてアイコンが上手く設定されない (白いファイル風アイコンが設定される) 問題を確認しています。アイコンは Java Web Start 実行環境が設定しますが Windows 8 では上手く設定できないようです。